

まち普請事業スケジュール



- **早めの相談が夢への第一歩**
 - ・地域まちづくり課に電話かメールで連絡を。
 - ・3月末までの登録で、まちづくりの**専門家が一緒に考えサポート!**

- **アイデアを提案書にまとめ、夢をカタチに**
 - ・提案書作りを**職員がサポート。**

- **1次コンテストは、アイデアと熱意で勝負**

審査基準 ①創意工夫②意欲③公共性

- **活動助成金**

1次コンテストを通過すると、最大30万円の活動助成金を受け取ることができます。
助成対象: まちづくりの専門家への謝金、広報活動費など

- **先輩グループとの意見交換とアドバイス**



- **審査員からのアドバイス**



- **2次コンテストは、熱意に加えて、具体性を**

審査基準 ①創意工夫②実現性③公共性④費用対効果⑤地域まちづくりへの発展性

- **地域みなさんで施設を整備**

- **整備助成金**

2次コンテストを通過すると、最大500万円の整備助成金を受け取ることができます。

- **地域みなさんで施設を活用・運営**

まちにこんなのあったらいいなを“できた!”に変える支援



地域まちづくり課の職員が提案のブラッシュアップや関係機関との協議・調整などを、継続的にサポート



1次コンテスト通過後は、まちづくりのプロから専門的なアドバイスを受けることができます。

お問い合わせ先
横浜市都市整備局地域まちづくり課

〒231-0005 横浜市中区本町6丁目50番地の10
TEL 045-671-2679 FAX 045-663-8641
MAIL tb-seibiteian@city.yokohama.lg.jp



Webで検索

まち普請

検索



Facebookで検索

まち普請ひろば

検索

明日をひらく都市
OPEN X PIONEER
YOKOHAMA

まちに こんなのあったらいいなを 応援します!

施設整備助成金
(最大)

500万円

随時問い合わせ
受付中

「どんな活動が対象?」
「申請難しい?」そんな疑問も、お答えします。
まずはお気軽にお問い合わせください。



シェア
キッチン



自然
体験施設



子どもの
居場所



アート



サイン
づくり



多文化
交流施設



まち普請事業の
概要はこちら▶

ヨコハマ市民／まち普請とは...

市民の皆さんが主体となって行う、地域の課題解決や魅力アップのための施設整備を伴うまちづくりに対して、支援、助成を行う事業です。

まちづくりのアイデア検討やコンテストへの挑戦、住民の皆さんで協力して行う施設整備工事などを通じて、地域コミュニティが活性化することを目的としています。

整備提案できる方

整備場所又はその近くにお住まいの方等を3人以上含んでいること

整備助成金（最大500万円）の対象となる経費

①設計費 ②工事費 ③工事監理費 ④整備に必要な活動費 等



過去の整備事例は
こちらからアクセス

まち普請
経験者の声



- ・地域の色々な方からモノや労力の協力をいただき、整備を完了することができた。
- ・1年間の流れに沿って計画的に活動を進めることで、短期間でアイデアを実現することができた。

(ぷらっとkiricafe)

CASE 01

地域の課題

霧が丘では高齢化や外国人住民の増加が進む中、世代や文化を越えて気軽に交流できる場所がなく、生活習慣・文化の違いや子育て世代の孤独、地域の繋がりの希薄化が課題となっていました。

活動の始まり

地域の繋がりを生み出すため、子育て世代の提案者が立ち上がりました。地域ケアプラザ等を通じてシニア団体や国際交流団体とも連携し、定期的な情報交換会や誰でも参加できるイベントを開始しました。

課題の再発見

活動の中で地域住民が様々なスキルを持っていることを実感。そのスキルを共有できて、いつでも集まって助け合える場が必要と感じ、まち普請へ応募。ぷらっとkiricafeが完成しました。

地域への広がり

ぷらっとkiricafeを通じて、世代や国籍を越えた交流が生まれ、語学教室やマルシェなど、様々な活動が展開されています。地域の誰もが立ち寄れる場所として、現在、活動はさらに発展しています。



「みんなの絵本のおうち」(泉区) 2020年度整備

活動の課題

音楽と共に絵本の読み聞かせを楽しむ活動を行っていたが、活動拠点にスペースが狭い等の課題がありました。より多くの人々が利用しやすい場所で拠点を開かないかとの話があり、整備費用として活用するため、まち普請へ応募。

地域住民の参加

専門家や市職員のアドバイスを参考に、徐々に仲間を増やし、地域の子どもたちとも協力して見事選考を通過。絵本の読み手や飲食提供者をボランティアで募集する等、活動者を増やしていきました。

他団体と連携

現在は、屋外での絵本読み聞かせやハンドメイドマルシェで活動の認知度向上に努めています。NPO団体と連携したコラボイベントの他、障がい者支援施設やグループホームと連携して活動しています。

地域への広がり

子どもからここでのボランティアを生きがいとする80代まで「支えるのも支えられるのもみんなで」という思いが、多世代交流を生んでいます。絵本のプログラムを提供し、心の休憩所となっています。



CASE 03

活動の始まり

美晴台自治会では、2012年より「住民が安心して暮らせる地域づくり」を目指し、高齢者支援を中心とした「助け合いグループ」を結成。庭木の剪定や茶話会など、住民同士が支え合う活動を始めました。

地域の課題

活動を通じて、碁盤目状の道と目印の少なさから、訪問先の家が分かりにくいという課題が浮上。そこで道に愛称をつけ、案内板やサインを整備することで、誰もがわかりやすいまちを目指し、まち普請へ応募。

地域住民の参加

地域を巻き込み、アンケートやワークショップで道の愛称と地域のシンボルを決定。「お絵描き会」で子どもたちが描いた200枚以上のサインを家のフェンス等に設置することで、まちに彩りを加えました。

地域への広がり

サインを活用したハロウィンイベントの開催等を通じて活動は継続。成長した子どもたちがボランティアとして参加する姿も見られます。新旧住民の交流が進み、まちに更なる賑わいが生まれています。



「ぷらっとkiricafe」(緑区) 2022年度整備

コミュニティカフェで多文化交流